

## 第5回 学校構想検討委員会会議要旨

日時 平成30年12月26日

午前9時30分～11時10分

場所 1階まなびの広場

### 会議の委員出席者

- ・岐阜大学教職大学院 教授 石川 英志
- ・岐阜教育事務所 学校職員課 村山 邦博
- ・自治会連絡協議会長 翠 治彦
- ・コミュニティ学園運営協議会会長 大熊 龍夫
- ・町PTA 連合会長 仲島 秀雄
- ・北方中学校長 浅井 孝彦
- ・北方町議会議員 井野 勝巳
- ・北方町議会議員 杉本 真由美

### 欠席の委員

- ・北方南小学校教諭 大羽 幸恵

### 会議の事務局出席者

- ・教育長 名取 康夫
- ・教育課長 河合 美佐子
- ・学園構想推進室長 浅野 浩一
- ・参事兼福祉健康課長 林 賢二
- ・防災安全課長 臼井 誠

### 書記の出席者

- ・学園構想推進室 係長 佐藤 弘章

### 会議の主な内容は以下のとおり

#### 1.座長あいさつ

おはようございます。本日は、年末のまさしく師走という言葉にありますようにお忙しい時期にお集まりいただきましてありがとうございます。暖冬とも言われていましたが、寒さもいよいよ厳しくなっている時期ですが、皆様にはおかわりなくご活躍のことと思います。今日は第5回ということで、いよいよ意見書の作成について検討をしてまいります。また、後ほど事務局のほうから11月に行った説明会の様子の報告もあるということです。特に意見書に関しては今年度一年皆さんと検討してまいりました内容や、皆さんの学園構想に対す

る思いや願いや夢を具体化するために、北方学園の学校をどうやって作るかということが非常に周りからも注目されていますし、北方の子どもたちをどう育てるかという非常に重要なテーマがございます。それだけに、忌憚のないご意見を頂きまして、実りある協議ができますようにどうかよろしくお願い致します。

## 2.北方学園構想について

説明会での意見等について、事務局から説明  
質問・意見なし

意見書案について、事務局から説明

### 1章について

- 3節の中で、義務教育学校の利点ということで私自身が実感していることですが、豊かな関わりというところで、子どもたちがこれまでより幅広い活動が出来るという点ですが、実際に今子どもサミットの日など校門のところでやっていますが、北方小学校と北方中学校は隣同士ですので、特にこの日によく見られる光景ですが、中学生の3年生と、小学校低学年の子たちが触れ合っている姿を見ていると、大変ほほえましく好ましい人間関係がこういった場で見えてきているように感じます。6年生の子たちにとっても、中学校に上がる時に、先日入学説明会を行いました、その後で出る意見や感想の中には、まだ義務教育学校にはなっていないませんが、中学校1年生になるというよりも7年生になるつもりで来てほしいという話をしたところ、子どもたちの意見の中に「1番下になるのではなく、小学校でしっかりやってきたことを続けて発揮したいという気持ちになった」という意見がありました。そういったことを考えると、小・中が接続というか一貫になることが、学年のふれあいや子どもたちの成長にとって大きな意味があるのではないかと感じています。
  - 義務教育学校は、制度的にも法的にも位置付けられているのですが、今後人口減少のもとで子どもの数が減ってくるので、小・中学校を一緒にすることは地域の人たちも理解がしやすいことから、義務教育学校の設立に上手くつなげていっているという事例はあります。それは、私も重要な方法ではないかと思っておりますが、北方の場合は9年間を通して「子どもを育てていく」、「子どもの発達を支えていく」、そのところを純粋な形で考えています。義務教育学校は、子どもの成長にとって9年間という見通しの中で育てていくことを小・中の接続の面から考えていて、そこがこれまでとは違う発想だと思うのです。その点が非常に大事なのではないかと思います。まずは、教員の意識が変わっていく学校にしていくことです。
- 今までいろいろな学校を回ってきて、事務局や委員で義務教育学校の利点を考えたことや、いろいろな文献等を手がかりにしながら考えたことを6ページに6つほど出してありますが、子どもの育ちとともに教員の育ちという点が大切です。中学校になりますと、ど

うしても進路指導などに目がいきますが、実を言いますと、小学校にも目を向けながら中学生を育てるということが、今後、教員の力量形成、教員の視野を広げるという意味で日本の教育の中で非常に大事なことになっていて、それが叶うのではないかと…とそのようなところが、この義務教育の利点の中で教員の育ちと子どもの育ちの2重構造になっているところに大きな意味があるのではないかと考えています。

○検討委員会の意見の中の、学校4校を維持していくことと、改築して2校にかえていくというお金のメリットのことを、もっと強調していくといいのではないかと思います。一般の人にはそのほうが解り易いのではないかと思います。

⇒今後の専門部会で協議していく中で具体的なことが決まっていく部分もあり、金額的なことを詳細に記述することは難しいですが、おおよそいくらぐらいの削減効果を想定しているのかという程度の内容なら加えることができると思います。その辺も含めて何らかの記述を加えたいと考えております。

○建築業者が北方は5年後こういう形になりますよと家を建てる条件として、学園構想の宣伝をしているようです。今まで栄町では、区画整理をしてかなり家が建ってきているが、去年までは、2世帯・3世帯だったのが、今年に関しては12世帯家が建ち、全部が完売して、11月中から3月までに引越しが完了するということです。業者の宣伝の効果もありますが、家が増えて人口減少に歯止めが出来れば良いと考えています。同時に南のほうも開発されます。南も素晴らしいところで、小学校の運動会等に行きますと、北は北の、南は南のよさがあり、南に関しては、道徳心が素晴らしい学校になってきていることを感じます。今後は、業者の宣伝等も利用しながら、家が新しく建っていくと、人口減少の若干の歯止めになると思っています。

○6ページの義務教育学校の利点についてはここにまとめていただいたとおりでと思うのですが、若干の心配事として教員の指導力向上が一番最初に出てきてしまうことにちょっと引っかかりを覚えます。子どもたちにとっての小中一貫9年間の見通しを持った教育であるとか、メリットはいっぱいあると思いますし、教員にとっての資質力向上の部分も確かにあると思います、それがはじめに出てくるというのはどうかなと思います。やはり子どもたちにとって一番というところを前面に出して行って、一番下の方に…下のほうだからどうでもいいということではないのですが、はじめにというのはどうかなと若干心配に思いました。

関連して3ページの下のところ、教員の指導力向上はいいのですが、優秀な教員の確保ということについても、もちろんそうなんですけれども、北方学園構想の中で学校現場における現状の課題の一番最後のところに優秀な教員の確保も重要な観点です。とあり、ここに話が落ちついてしまうと、学園構想の踏まえていかないといけない課題は教員の指導力であるという印象が強くなる感じがします。これは表現上のことだけなんですけれども、学園構想そのものが優秀な教員の確保というところに落ちてしまうことへの不安を若

干覚えるので、それを感じさせない表現を考えてもらえるといいのかと思いました。

⇒学校は当然子どもが主ですが、教育行政や学校の立場からすると、一番は教員の指導力によるところが大きいと思っています。教育は教員によるところが大きく、その結果子どもがよくなるため、まずは、教員が指導力を発揮して明るく勤めるというのがもっとも大切です。北方町としても、業務支援アシスタントを設けたり、勤務時間の管理をしたりとか、いろんな点で努力しており、それを町としては一番にしていきたいということがあります。また、優秀な教員の確保というところで県から加配を少しでもたくさんほしい、統合なんだからそれにみあう統合加配もほしいということは正直ありますが、それだけではなく、そこに書いてあるのは、今は中学校は1校ということで、中学校の先生は採用1年目から6年目までの教員と広域の人で3年ですぐに岐阜市や瑞穂市に帰ってしまうため、北方町のこれまでの伝統とかよさとか生徒指導の流れを充分知ってここで長く勤めていただける教員がなかなかいません。今後、中学校が二つに分かれることによって自分の子どもが入ってくるからほかで勤めるとか、3年で北方から出て行くということではなく、南の学園と北の学園とを行き来しながら長く勤めてもらったり、地域のことを知ってもらったり、北方中学校では音楽の先生は基本的に一人ですが、二つの学園になることによって2人になり切磋琢磨したりということで、教員の資質向上をはかっていきたいと思っています。加配があれば、北方町だけがよければ、ということではなく、この仕組みによってそれが出来ないかという思いであって、ご指摘のように表現上誤解される部分は考えていきたいと思いますが、そういった思いを書いているということです。

⇒ややストレートな言い方ですが、教員が外から入ってくるというイメージが入ってしまうのですが、実を言うと本質は北方で教員を育てるというのが核心だと思うので、違う表現方法もあるかもしれないですね。北方で子供をどう育てるかということと、教員をどう育てるかというのをタイアップして考えていこうということなので、それを考えていくために義務教育学校というのは適しているのではないかと、そのあたりを含め考えると良いですね。

## 2章について

○学校の選択制度の導入について、どのあたりまで出来るのですか。もう少し煮詰まったところはどう考えていますか。また、学区でということですが、北のほうの生徒数については良いですが、南のほうは生徒を増やしていきたい。このあたりを考えていきたい。よその地域からの転入は出来るのか、地元だけで増やしていかなくてはいけないのか、そのあたりの取り組みが課題だと思います。

⇒具体的なことは今後つめていきたいと考えています。三つの視点で考えており、一つは、地理的なことで、南のほうへ通ったほうが近いというような、例えば明治ファルマの南側の地域など、通学距離が南のほうに近いのではないかと地域がどこがあるかというのを実際に歩いたりして調べたいと思いますが、今度の専門部会の中でそれをやっていきたいと思っています。二つ目は地域と関係なく、北方中学校に通っていてちょうど中三になるときに南学園に行く子について、進学のことがあるので、そういう子に対する配慮です。地

域とは関係なくその時点での学年のことがあります。もう一つは、生徒指導上の問題であるとか、どうしても学校に行きにくいという事情がある場合は通学先を変えることが出来るので、今度南と北になった場合にどうしても人間関係であるとか困ったことがあれば町の中で変わるということが出来ると思います。おおよそ以上の三つの視点から、学校選択制度のルールを作ってやっていきたいと思います。

### 3章について

○全体的によくまとまっていると思います。これからこの教育方針の中で、英語教育の充実には本当に力を入れてほしいことで、これからの社会は英語なくしては成り立たないと考えて、先生たちのことを考えてあげることは必要です。近くの学校でも、外国人の先生が結婚をして日本に永住して教員免許を取って教えているという人もいますが、そういう人たちの受け入れ態勢を整えていってほしい。それと同時に ICT の活用にしても、充実させていかなければならないし、桑原学園や白川郷学園との交流をしていくと生徒自身の視野も広がると思われるし、教育方針等もいいところを取り入れていくことでよいところをどんどん進めていってほしい。

⇒英語教育は特色ある教育の一番に挙げています。ICT 教育も深い学びの一つとして考えています。特に英語教育は9年間一貫して一つのカリキュラムでやったほうが良いと思うので、その特色を出してやっていきたいと思います。

○地域連携について、先日老人会にて学園構想について、いろいろな事をお伺いして来ました。グランドのことや施設関係のことなどです。

地域の方々は大変興味深く関心を持ってみえるので、老人会などにも情報を提供していただいて、一緒に精査していきたくと思います。

○英語教育のなかで、英語力の検定に挑戦する姿勢を育てるという記述がちょっと具体的すぎる気がします。意図はわかるのですが、ここまで書いていいのかということを感じる所です。また、2校あるということで良きライバル、2つの学園がいい意味でそれぞれの文化を築いていくということが非常に大切なので、ライバルというだけでなくそれぞれの学校の違いを育てていく中でライバルの部分が出てくるというような表現をあえて付け加えても良いのではと思いました。

⇒英語力検定については、今後入試の代わりになったり、子どもが主体的に挑戦して欲しいということがあって入れましたが、コミュニケーション能力の向上とか、もう少し工夫した表現を考えます。ライバルということの捉え方は、具体的に考えているのは、今合唱集会を行っても、北方中学校が発表するとそれで終わりですが、2校になれば、「あちらの学校はそうやってやるんだ。こちらはこうだ」というように幅が広がるということで、違いを出して幅を広げたいという思いです。

#### 4章について

○北方南小学校のグラウンドはどうしても狭いです。小学生と中学生が一緒になるときに、部活のサッカーで蹴ったボールが小学生に当たるようなことが起こらないかと、保護者は心配しています。フェンスの整備等いろいろと検討をお願いしたいです。

○職員室は、前期課程・後期課程が一緒になるということなら、表現上ですが、小学校・中学校の先生と言うのではなく、1年生から9年生ということにしていかなければいけないんだと感じています。検討委員会としての意見にある、義務教育学校のメリットである小中の教員の協力が確実に…という表現が若干引っかかります。義務教育学校なので、小中の教員という区分けそのものが違うんじゃないかと。前期課程と後期課程は別々ですかということになる。言われていることはわかりますが表現を考えた方がよいと思います。

⇒そこは、いろいろ悩んだところです。自分たちは前期課程・後期課程でわかりますが、一般の方々にわかってもらうためには…というところで考えました。ご指摘はごもっともなので表現方法を考えます。

○北学園の真ん中の道路閉鎖について、議会のほうでも話をさせていただいたが、管理棟を建てるということで、それについてはいたしかたないかと考えています。ただ、住民が利用していた道を封鎖ということに関しては、住民の理解を得て封鎖してほしいです。先日、説明会をして10名足らずの方が参加されたと聞いていますが、これで住民の理解を得たとは受け取れないので、多くの方の理解を得るような方法を取ってほしいです。また、校舎の大規模改修または長寿命化工事を計画しており、建て替える予定はしていないという記述がありますが、改築に係る予算額が25億くらい、当然新築にすると工事費が高くなり130億という膨大な金額になるとの話もあるので新築は出来ないということですが、そのあたりは今後も検討課題になると思います。

⇒住民説明については、これからの学校は地域に愛される学校となり、地域とともに歩む学校とならなくてはならないので、丁寧に説明をしていきたいと思います。

建物を新築するか改築かについては、一番大切なのは子どもたちが安心安全に学校生活を送ることのできる施設ということです。もちろん全部建て直してしまうのが一番いいのかもしれませんが、専門的な設計士等の意見も聞きながら、安全が確保できるというところを前提に進めていきたいと思っています。改築も大規模で行っていくのか一部を行っていくのか、そういったところでも変わってくるのですが、議員さんがおっしゃるところも配慮しながら進めていくつもりをしています。検討委員会としては、ここは新築、ここは改修といった具体的なところまでは踏み込めない部分もありますので、そういったところをご理解をいただければと思います。

#### 5章について

○スケジュールの給食調理場のところは、今後どのような感じで検討していくのですか。施設の老朽化も進んでおり、少しでも早く作っていただきたい。

⇒スケジュールの真ん中に記述がありますが、各種申請事務に時間がかかることもあり、公聴会を開いたりして、そこをクリアしないとすぐに工事にとりかかれません。予定としては2019年の早い段階で申請事務に取り掛かり、2020年に本体工事、2021年に運用開始が出来ればと考えています。順調に進んだ場合、2021年4月に新しい調理場からの給食の提供が出来ればと考えています。最速で作れるように下準備を始めて、努力して進めていきます。

○教員ワーキンググループ・児童生徒からの提言というのがあります。ここが非常に大事だと思いますが、教員ワーキンググループというのは、他には記述がないのですが、どのように立ち上げていくのですか。

⇒主に準備委員会の中の学校運営部会で協議すべき事項はたくさんあり、6つの部会の仕事量は同じボリュームではありません。例えば、この学校運営部会の中で教員ワーキンググループを別に組織して、そこで補完的に話し合ってもらったりということが考えられます。この部会では教員が主体となって働きやすい・学びやすい仕組みを作っていかなければならないと思うので、そのような方法を考えています。

○今後のスケジュールのところの後期のところを見せていただいて、北学園は、北方小学校と北方中学校が33年度から職員室がひとつになる予定なので、検討部会とか、教育課程の編成等は非常に進めやすいと思いますが、南学園のほうは小学校の先生しかいないので、教育課程とか、すり合わせていくことがなかなか難しいと思います。今後南学園のほうをどのように検討していくのかというところで中学校とのかかわり方について今後ご相談していただければと思います。

⇒実際には職員室が一緒になるところからスタートしては遅いところもあるので、31年度から小中の教員が一緒になって検討し、小中一貫教育というところをテーマに準備を進めていくという計画でいきたいと考えています。

#### 全体について

○保護者の意見としては学力の向上を目指してほしいということが一番よく聞くので、そういう点では良くまとめられていてわかりやすいと思います。ただし、いじめの問題と、北方南小学校の子が中学校に別れるときにきっちりしたルールがないと混乱するのではないかという意見がありました。

もう一点、部活のことですが、どうしても二つに分かれるので、例えば野球部が二つになった場合、先生も2人必要となりますが、先生の働き方改革の流れに逆行するのではないかと思うので、この際に外部コーチなどを取り入れながら職員の負担を減らしながら、今までのようにしっかり部活もやっていただきたいと思います。

⇒すべて今後の専門部会で具体的につめていかなければいけないことで、特に部活は本当にいろいろなことが絡んで難しいところですが、よりよい方法を検討していきます。教員の働き方改革は、中教審の答申で45時間以上の残業はできないということが示されると、今までどおり教員が部活をやっていくのは難しいということがあります。また、教員の中

にも部活をやりたくて教員になった人もいるので、そういう場合はコーチとして位置づけてやっていく事も大事ですし、チームを1チームで出るのが2チームで出るのがかという事も中体連の規則にのっとって進めなければなりません。ただ、みんながレギュラーとして活躍しながら部活として親しんでということなら両方で出たほうがいいし、勝ちに行くということなら合同のほうが良いとも考えます。そのあたりは議論を重ねて今までどおりには行かないことがたくさんありますので、基本的には社会人コーチや、教員のコーチとしての位置づけということで北方にあった方法を考えていかなければならないと考えています。

○南のほうだと総合体育館もあるし、スイミングスクールもいくつかあるということを見るとそういうところを利用するという事は考えると良いかと思います。また、全体的に駐車場はあるのかとも思います。さらに北方には、幼保や農林高校もありますので、そこからも意見を聞いていただくとよいと思います。農林高校はいろいろな活躍の場に出てきてもらっているので、今後も連携を進めていきたいと思っています。

### 3.その他

#### 次回の日程と内容についての事務連絡

意見書に関して、今日の皆さんの意見を頂き、誤字脱字等も直しながら、開いたスペースにはイラスト等も配置しながら次回には完成に近いものをお示ししてご確認いただこうと考えています。

また、意見募集を実施したいと考えております。一度内容を修正したものをお示しして、広く住民の方、一般の方からご意見を頂きたいと考えています。1月の下旬から2月の初旬ぐらいに実施できればと考えています。その内容に応じて訂正等あるかもしれませんが、それを踏まえて次回の委員会には最終的な意見書を皆さんにお示ししたいと考えております。

次回の日程についてですが、今度6回目が最後の委員会ということでこの一年の総決算ということになります。2月の開催と考えており、おおよそ20日頃を予定しております。